



台湾でのトップセールスの様子（中国5県知事）



台湾の旅行博における出展ブースの様子

動を加速させていく計画である。2026年度は、「地域ブランドの構築」「ランドクルーズ実証事業」「コネモビ（Connecting Mobility Services）のプロモーション支援」の三つを柱

商談会を組み合わせた事業である。本事業を通じて、当地域を周遊する旅行商品が数多く造成されており、地域の観光事業者にとって貴重なインバウンド誘客の機会として定着している。

また、各県の知事が団長を務める「海外トップセールス」も毎年継続している事業である。2023年8月に台北で実施した際には、5県の知事全員が一堂に会し、地域のプレゼンを行うなど、現地では大きな反響を呼んだ。個人旅行者向けには、台湾・香港・タイなどで開催される大規模な海外旅行博に出展している。2025年11月に台北で開催された旅行博では、広域連携DMOや自治体等と連携し、各ブースの仕切りを取り払った共通の

広域リージョン連携による今後の取り組み

デザインで装飾を実施した。これにより、地域の一体感を視覚的にアピールし、多くの来場者から好評を得ることができた。

中国地域では2025年9月、5県の知事と経済界のトップによる「中国地域広域リージョン連携プラットフォーム」を設立し、産業および観光振興の分野で連携を深めていくことを掲げている。広域リージョン連携とは、県境を越えた主体が連携して施策を展開するために国が創設した枠組みであり、当会は、観光振興の事務局機能を担い、国の地域未来交付金も活用しながら、地域一丸となった活

地域が一丸となって周遊の魅力を高めていく

インバウンドの地方誘客を地域経済の活性化につなげるためには、県境を越えた広域的な連携が欠かせない。地域が一丸となって周遊の魅力を高めていくことは、エリア全体の価値を底上げし、多くの訪日客に目的地として選ばれるために極めて重要である。今後も、こうした共創の取り組みを通じ、中国5県全域に恩恵が行き渡るよう、持続可能な地域振興を目指していきたい。

中国

地域一丸で取り組んでいく インバウンド誘客



中国地域観光推進協議会会長 芦谷 茂
あしたに しげる

政府の第5次観光立国推進基本計画において、観光は地域経済をリードする戦略産業と位置付けられており、2030年の訪日外国人旅行者数6000万人という高みを目指す中では、地方誘客を促進し、構造的に需要を分散させることが不可欠といえる。

中国5県と経済界で構成する中国地域観光推進協議会では、インバウンド広域周遊の促進による地域振興に注力している。本稿では、地域一丸となったその取り組みの歩みと展望について紹介したい。

広域周遊による交流人口の拡大を目指す

中国地域は、日本海・中国山地・瀬戸内海が織りなす多様な自然景観に加え、四つの世界遺産（広島県の厳島神社、原爆ドーム、島根県の石見銀山、山口県の明治日本の産業革命遺産）など、世界に誇る文化的・歴史的資産を数多く有している。

しかし、地域のポテンシャルとは裏腹に、インバウンド観光は長年厳しい状況に置かれている。人口や経済規模は全国のうち約5%を占めるものの、外国人延べ宿泊者数のシェアは2%弱にとどまっており、観光消費単価も全国で最下位レベルにあるのが実情である。その最大の要因として、需要の地域的偏在

が挙げられる。広島県への訪問者は多いものの、特定のスポットのみをめぐる「通過型」の観光にとどまる傾向が強く、周辺4県へ足が延びにくい状況にある。その背景には、地域全体の認知度の低さに加え、山陽と山陰地方、主要都市と中山間地域や島しょ部を結ぶ二次交通の脆弱性が指摘されている。

こうした県境を越えた共通課題を打破し、地域一丸で交流人口の拡大を図るべく、2000年に当会は設立された。2010年からはインバウンド事業に特化し、2026年5月現在、行政、経済団体、観光団体、企業、公共交通機関など100を超えるステークホルダーが結集する、官民連携の広域観光推進プラットフォームとして機能している。

地域の一体感をアピール

当会では、東アジア、特に台湾・香港を主要ターゲットに設定し、BtoB（旅行会社向け）とBtoC（個人旅行者向け）の両面から、広域周遊を促すプロモーションを展開している。

旅行会社向けには、地域への誘客の核となる旅行商品の造成を支援している。2005年から開催している「中国地方インバウンドフォーラム」は、主に台湾の旅行会社を招請し、現地の魅力を体感いただく視察ツアーと

に据えている。

このうちランドクルーズは、5県の主要観光地を結ぶ周遊観光バスの実証事業である。「体験型移動」をコンセプトに、自由な乗り降りや通訳ガイドによる解説、ホスピタリティを融合させた新たな移動モデルを検証し、滞在日数の拡大やマーケットの開拓を図っていく。

また、日本初のサービスとなるコネモビは、複数事業者の高速バスの予約・決済などをスマホ一つで可能にするものであり、個人旅行者が中国地域全域を円滑に周遊できる環境を整える強力なツールとして、知名度向上に向けた支援を展開していく考えである。